

道徳科学習指導案

令和3年5月26日(水) 第6学年1組(6年1組教室) 指導者 内田 圭祐

【主 題】ルールとマナーのどちらがいいの? 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」(内容項目C12「規則の尊重」)

考察	道徳的諸価値についての理解 (学習活動)	自己の生き方についての考え (学習活動)	道徳性 (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度) (育成を目指す資質・能力)
育成を目指す 資質能力	・ルールとマナーが存在することで自分も周囲の人も心身ともに気持ちよく生活できることについて理解すること。	・自己の生活経験を基に、ルールとマナーが存在することの大切さについて、友達や教師と話し合いながら考えること。	・ルールとマナーを守って生活していこうとする道徳的判断力を養う。
児童の実態	・ルールとマナーを守らなくてはいけないことを理解している。 ・ルールとマナーが存在する意義については、十分に理解していない。	・一部の児童は、ルールが存在することで、自分も周囲の人も安全に生活できることに気付いている。 ・一部の児童は、マナーが存在することで、自分も周囲の人も温かい気持ちで生活できることに気付いている。	・心身ともに気持ちよく生活するために、ルールとマナーを守って生活していこうとする道徳的判断力をもてていない。
価値	・ルールとマナーが存在することは大切なことである。なぜなら、ルールが存在することで、安全な生活を送れるようになり、マナーが存在することで、温かい気持ちで生活できるなど、個人の権利を守れるからである。しかし、高学年の児童は、ルールは守れるが、マナーは守れないことがある。それは、守る・守らないの判断が個人の判断に委ねられ、守る義務があることに気付いていないからである。そこで、ルールとマナーが存在することの大切さに気付くことで、ルールもマナーも進んで守っていくことができるようになる。 ・路上喫煙禁止をルールにしたらたばこのポイ捨てが減った状況から、児童はルールとマナーについての問題意識をもつことができる。ルールとマナーが存在することの意義に着目することで、安全に過ごせたり、周囲の人と温かい気持ちで生活できたりすることに気付く。そして、マナーをルールに、ルールをマナーに置き換えたときの状況に着目することで、ルールとマナーのどちらも存在することで社会が成り立つことに気付く、ルールとマナーの両方ともを守って生活していこうと考えられるようになる。		
見方・考え方	ルールとマナーが存在することの意義について、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、これからの自己の生き方について考えること。		
今後の学習	6年「いらなくなったきまり」で、みんなが気持ちよく生活するために大切なことについて考える学習へと発展していく。		
他の教育活動との関連	・ルールやマナーを守ることにについて 例：廊下を移動する場面、給食を食べる場面、挨拶をする場面		

本時の学習（１／１時間目）

ね ら い たばこのポイ捨てをルールやマナーにすることについて話し合うことを通して、ルールが存在することで安全に生活でき、マナーが存在することで温かい気持ちで生活できることに気づき、ルールとマナーを守って生活していこうとする道徳的判断力を養うことができる。

評価の視点 ルールとマナーが存在することの意義について、教材の状況や生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを、発言したり記述したりして
いる。 <発言・タブレット>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
１ 教材を読み、学習課題をつかむ。 - ルールは、罰則があったり、禁止されていたりして厳しいもので、マナーは、守った方がよさそうなものかな。 - たばこのポイ捨ては、効果が出るからルールそのままでもいいのかな。それとも、マナーにした方がいいのかな。どちらにした方がいいのかな。（課題意識）	○本時で扱う道徳的価値への方向付けができるよう、ルールとマナーについてのアンケート結果を提示し、ルールとマナーの違いを問いかける。 ○たばこのポイ捨てに関わるルールとマナーについての問題意識をもてるよう、教材「マナーからルールへ、そしてマナーへ」の範読後、たばこのポイ捨てをルールのままにするものの是非を問いかける。
学習課題：「たばこのポイ捨て」はルールとマナーのどちらにした方がよいのだろう	
２ 学習課題の解決に向けて話し合う。 - 路上喫煙禁止のルールの方がいいと思うな。だって、ポイ捨ては絶対にいけないことだから。 - 確かに、ルールだと強制的に守られている感じがするな。相手も自分も笑顔にするには、マナーにする方がいいっていうのも分かるな。 - みんながマナーを守れるなら、ポイ捨てもなくなって、みんなが気持ちのよい生活ができる気がするな。でも、みんなが守ってくれるわけではないのかもしれないな。 - ルールになると、確実にポイ捨てのないきれいな街になって、マナーになると街の雰囲気がよくなりそうだな。 - 全てマナーになったら、罰則がないから守ろうと考える人が減って、安心して生活できなくなってしまうかもしれないな。 - 全てルールになったら、全て守らないといけないから、窮屈だと感じる人が多い世の中になってしまう気がするな。	○学習課題に対する自己の考えを自覚できるよう、タブレットに学習課題に対する考えを書くよう促す。 ○学習課題に対する自己の考えが一面的であることに気付けるよう、タブレットで児童の回答を共有する。 ○学習課題に対する自他の考えを多面的・多角的にすることができるよう、友達に質問をしたり自己の考えを伝えたりするよう促す。 ○ルールが存在することで安全に生活できたり、マナーが存在することで温かい気持ちで生活できたりすることに気付けるよう、学級全体の前で発表された学習課題に対する考えを、ルールとマナーに分けて板書する。 ○マナーが安全でない生活を生む可能性があることに気付けるよう、ルールの全てがマナーになったら起こりそうなことを問いかける。 ○ルールが息苦しい生活を生む可能性があることに気付けるよう、マナーの全てがルールになったら起こりそうなことを問いかける。
３ 学習課題を解決し、これからしていきたいことについて考える。 - たばこのポイ捨てに関しては、ルールがあるからしないのではなく、たばこを吸っている人や住んでいる人のことを考えた上で、みんなでするという、マナーにしていきたいな。（課題を解決した意識） - これから、決められているルールを守ることはもちろん、周りの人と気持ちよく生活するためのマナーを守る行動もってしていきたいな。	○学習課題に対する自己の考えが深まったことを自覚できるよう、交流した友達の考えやクラス全体で話し合った考えを取り入れながら、再度自己の考えをタブレットに書くよう促す。 ○これからの生活への見通しをもてるよう、「これからしていきたいこと」の視点を提示し、タブレットに振り返りを書くよう促す。